

料理をつつきながら旧交を
温める参加者たち



会場を沸かせた、竹屋理事長・学長率いる「西里ブラザーズ」によるライブパフォーマンス



卒業から1年 笑顔で再会

久しぶり、元気かい

卒業後1年同期会「久しぶり、元気かい(会)」が7日(土)、本学レストラン・ピアで開かれ、卒業生83人と教職員36人が参加しました。

当日は、卒業生アンケート結果の発表に続き懇親会を実施し、パーティーメニューを楽しみながら、卒業生と教職員が互いの近況を語り合いました。会の中盤には竹屋元裕理事長・学長が率いる「西里ブラザーズ」によるライブパフォーマンスが行われ、会場は大いに盛り上がりました。その後、理事長・学長賞をはじめとする豪華景品が当

たるビンゴゲームが行われ、最後まで熱気に包まれた時間となりました。

参加した卒業生たちからは「シフトを調整して参加したのですが、来て本当に良かったです」「久しぶりに先生や友だちに会えて、最近の悩みも相談できました。話を聞いてもらえて気持ちも軽くなったし、また頑張ろうと思えました」といった声が寄せられ、再会を喜ぶ温かな雰囲気の中で会は終了しました。

(就職・実習支援課)

第1回心エコー選手権…若手医師、研修医らと競う

心エコーの知識や技術を競い合う第1回心エコー選手権が2月22日(日)、熊本市中央区の本学病院において開催され、医学検査学科3年次生のチームが3、4位に入賞しました。

同選手権は、学生や若手医師に心エコー図検査に興味をもってもらうとともに、交流を通して将来のチーム医療につなげてもらうことを狙って企画されました。学生8チーム(医学生、検査技師学生)、若手医師4チーム、研修医4チームの合計16チームが参加。本学からは学生3チーム(9人)が古閑公治教授の引率で参加しました。

結果は、優勝した熊本大学循環器内科医チーム、準優勝の宮崎県立延岡病院研修医チームに続き、本学の「熊保三角チョコパイチーム」が3位、「熊保アップルパイチーム」が4位と健闘しました。

臨地実習終了から大会までの期間が短かったため、本学は参加を見合わせるつもりでしたが、学生たちの「出たい」という熱い気持ちに押され、1か月間の特訓を開始。見事な成果を収めることができました。

参加した学生たちは、「本番はとても緊張しましたが、これまでの練習を活かし、最後までやりきることができた」「問題を解く中で、臨床では何が重要視されているのか、どのように座学での知識を活かすのかを改めて認識することができ良い機会になりました」「大会を通して、エコー検査の手技を上達させたいという気持ちと、興味・関心がより一層強まった。」「練習や空き時間にはスタッフの方からご指導をいただき、他チームの手技や画像からも多くを学ぶことができました」などと、前向きなコメントが寄せられました。(文責：医学検査学科 富田文子教授)



大健闘した医学検査学科チームのメンバーたち

医学検査学科チーム3、4位



病院・企業の担当者の話を
真剣な表情で聴く学生たち

どんな仕事に就きたい？

11病院・企業が職種紹介

医学検査学科3年次生を対象とした職種紹介を、2月13日（金）と16日（月）の2日間にわたり実施しました。

今回は、11の病院・企業の担当者より、各職種における業務内容について具体的に説明していただきました。また、青木学教授は「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」について紹介、本学大学院生が自身の研究テーマをどのように就職へ結び付けたかについて語りました。学生たちの可能性を広げる上で参考となる内容でした。

当日は3年次生に加え、1・2年次生も複数の参加があり、早期からキャリア形成への関心が高まっている様子うかがえました。今回の職種紹介は、学生にとって貴重な学びの機会となりました。今後もこのような機会を継続的に設け、学生がより具体的なキャリアプランを描けるよう支援していきます。（就職・実習支援課）



講演する筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局の船越准教授

専門職養成課程での 学生支援の在り方学ぶ

学生支援に関する講演会（学生相談・修学サポートセンター主催、FD委員会共催）が2月25日（水）、1300講義室Lで開催されました。

冒頭、学生相談・修学サポートセンターの岩村純子オーガナイザーが、本学の修学支援状況や国家試験時の配慮申請手続きなどについて説明。その後、筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局の船越高樹准教授が「専門職養成課程における障害学生支援～キャリア形成を意識して～」と題してスライドを用いて講演しました。

今回の講演会は2部制。第1部は予習動画視聴、第2部がこの日の講演会でした。事前に寄せられた質問について回答・解説する時間や、テーマごとの短いワークもあり、腕を組んで考え込む姿や、近くに座った参加者と話し合う様子が見られました。

（NL編集部）

今年度最後の入試終了...一般選抜（共通テスト利用・後期）

今年度最後の入試となる一般選抜（共通テスト利用・後期）を、6日（金）に実施しました。あいにくの雨模様ではありましたが、

欠席者や体調不良者もなく、無事終了。13日（金）に合格者を発表しました。

（入試・広報課）

初の臨床実習 発表会で体験共有

言語聴覚学専攻の臨床実習報告会が2月27日（金）、3213・3217・3218・3219実習室で行われ、1年次生46人が発表に臨みました。

同専攻の1年次生は、2月9日（月）から24日（火）の間の5日間、病院や施設で実習（入門）を行ってきました。報告会では、自身が実習を行った病院や施設の概要、担当した患者とのエピソード、反省点や今後の課題などを、持ち時間8分（発表準備1分、発表5分、質疑応答2分）で報告。「コミュニケーション不足を実感した」「指示されてからしか動けなかった」「まだまだ知識が足りないと思った」と、初めての実習を通して感じたことを報告すると、共感したのか深くうなずく学生の姿も見られました。緊張した様子も見受けられましたが、全員が堂々と報告していました。（NL編集部）

言語聴覚学専攻1年



「伴走者」としての決意新た

健スポセンター中村さんが講演

職員有志で構成されたクマホの未来創造チームによる「事務職員による勉強会」の2回目のトライアルが2月27日（金）キャンパステラスのコロシウムで開催されました。

今回は「新しい仕事に挑戦できる幸せ～想いを形に～」と題して、健康・スポーツ教育研究センターの中村祐貴さんが講演しました。冒頭、同センターの役割や取り組み、包括連携協定に基づく活動について説明。その後、ソフトテニス選手、指導者といった中村さん自身の経歴や仕事内容の話題に移ると、中村さんの表情も和やかになり、会場内もアットホームな雰囲気になりました。講演の最後に中村さんは、「『伴走者』として、事業の完成度を高める。『伴走者』として、センターの可能性を広げる」と、今後の活動に向けて新たな決意を口にしていました。

講演後、河瀬晴夫事務局長は「勉強会を通して、表現すること、発信することをいろいろな職員に体験してほしい。そのきっかけを作ってくれたクマホの未来創造チームに感謝したい」と話しました。（NL編集部）

未来創造チーム「事務職員による勉強会」



スライドを使い講演する中村さん

ハラスメント防止に向け研修会

令和7年度ハラスメント防止研修会が2月27日（金）、50周年記念館で行われ、NPO法人福岡ジェンダー研究所の倉富史枝理事・研究員が講演しました。本学では4年に1回、学生や教職員に対してハラスメントに関するアンケートを行っています。今回の研修会では、アンケートの結果やハラスメントの現状、対策などが示されました。

倉富氏は、大学や医療機関には独特な複雑な力関係の存在があるなど、組織の特異性を持ち、それぞれストレスが高い職場環境にあると説明。他大学や企業で起きたハラスメント事例を紹介しつつ、加害者への対応や職場の仲間が困った際にどうするといったか解説しました。参加した教職員たちは、うなずいたり、メモを取ったりと、これまで以上に働きやすい・学びやすい環境を整えようと積極的に学んでいました。（NL編集部）



講演する倉富氏。ハラスメント被害者に及ぼす影響などについても詳しく説明しました

キャンパステラス発 松岡 詠子

地球を一周してみませんか

本学は英語力に加え、多様な価値観を理解できる人間力を養成するために、国際交流にも力を入れている。

例えば、グローバル・スチューデント・リーダーシップ・プログラム（GSLP）。これは、韓国にある本学指定校の大邱保健大学にてアジアを中心にした10カ国の学生と交流するもの。また、韓国や、タイでの2週間、アメリカでの4週間の研修が学科ごとに準備されている。大学間、学生ならではの交流と経験が、そこではできる。ぜひ、人生のこの時期だけの貴重な時間を過ごして欲しい。

ところで、海外に興味を持ち続ける人のために、紹介したいチケットがある。それは「ワールド・エクスプローラ世界一周旅空券（大陸

制）」だ。これは、加盟している14社の航空機を最大16フライト利用できるものだ。有効期間が1年間あるので、一時帰国して再スタートも可能。行程を分割すれば一度に長期休暇が取れなくても大丈夫。費用も一番安いチケットならば40万円もかからない。

ただし、出発地から、西回りか東周りで地球を一周し、出発地に戻らなくてはならないという利用ルールがある。

かく言う私もこの冬、このチケットを利用して北米を中心に海外を旅してきた。悪戦苦闘の連続だったが、それも楽しい思い出。どこかのタイミングで海外を旅したい人にはお勧めしたいチケットだ。

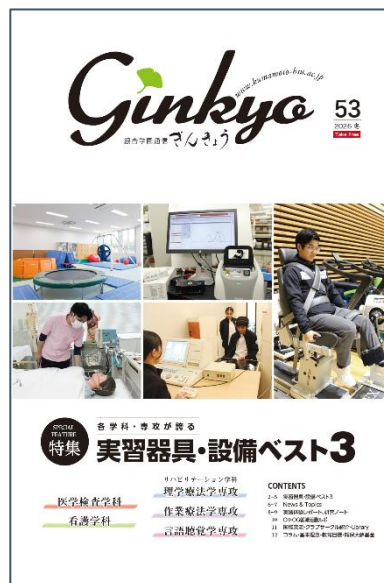
「ぎんきょう」53号を発行

特集は自慢の設備、実習室紹介

本学広報誌「银杏学園通信 ぎんきょう」（年2回発行）の53号がこのほど完成しました。

特集では〈各学科・専攻が誇る実習器具・設備ベスト3〉と題し、最先端の教育研究設備や実習室などを学科・専攻ごとに3つずつ紹介しています。このほか、学生たちの実習体験レポートや、昨年度の卒業生たちの就職活動エピソードなど、バラエティーに富んだ内容となっています。

3千部発行し、保護者や実習先、退職者などに送付します。後日、大学ホームページにも掲載予定です。（入試・広報課）＝写真は「银杏学園通信 ぎんきょう」53号の表紙



银杏アラカルト



■牛深高1、2年生が来学 牛深高校の1、2年生29人が19日（木）、本学を訪れ、学内施設などを見学しました。1304講義室Mで行われた大学概要、職業紹介の際には、入試・広報課職員が本学の魅力や取得できる資格について詳しく説明。生徒たちは熱心にスライドを見つめ、真剣な表情で話を聞いていました。その後は、アリーナや実習室を見学。最後には、レストランで友人たちと談笑しながら、持参したお弁当を食べたり、学食の味を堪能したりと、学内の雰囲気を楽しんでいました。（NL編集部）

インフォメーション

週間行事予定（3月16日～3月23日）

3/18（水）	学校法人银杏学園理事会評議員会
3/22（日）	春季オープンキャンパス
3/23（月）	学内研究費助成（P&P）報告会 国家試験合格発表（臨床検査技師・理学療法士・作業療法士）